

令和3年度（2021年度）

肥後っ子いきいき読書環境づくり事業講座

「不自由を自由に変える読みあいのすすめ」



- 主催 熊本県立図書館
- 期日 令和4年（2022年）2月21日（月）
13:30～16:00
- 会場 オンライン開催
オンライン会議システム（Webex）による実施 ※ライブ配信のみ
- 講師 村中 李衣 氏
（児童文学者／ノートルダム清心女子大学 教授）
- 参加者 51人
- 対象 公共図書館職員、小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校図書館職員（司書・司書教諭を含む）、学校図書館支援センター職員等学校図書館支援担当者

前半 講話「子どもたちと響きあう絵本の読みあいと創作の原点」

まず、ご自身の絵本、児童文学の創作の原点や日常にある物語を見つめ直すきっかけになった経緯についてご講演いただきました。また、著書である児童文学『たまごやきとウインナーと』や『あららのはたけ』、絵本『こくん』などの作品が生まれた背景について、今までの子どもたちとのやりとりなどを交えてお話しいただきました。そして、読みあいの活動のはじまりや児童文学作家として子どもの本に携わること、小児病棟や女性刑務所の活動についてもお話しいただきました。



後半 講話・実践「それぞれの現場で活かすブックコミュニケーション」
質疑応答

自分の内側にある物語と本を結び付けて紹介するブックコミュニケーションについてご講演いただきました。参加者にそれぞれのコミュニケーションの種になる経験や思い出と絵本を発表していただいた後、講師からさらに子どもと本を結ぶヒントを具体的に教えていただきました。

質疑応答では参加者が持参した本の子どもへの手渡し方や読み方、抱えている疑問などを一緒に考えていただきました。そのなかで、小・中・高校生への読み方の違いについても実践を交えて教えていただきました。

全体の研修をとおして、絵本や児童書のを力を借りて、日常にある物語を見つめ直し、違う角度から光をあてて子どもたちに本を届けるブックコミュニケーションの大切さを学びました。



参加者の感想（アンケートより一部抜粋）

- ・本にまつわるさまざまなエピソードなども聞くことができ楽しく時間が過ぎました。他校の先生方とのやりとりも画面越しとはいえとても親近感がわき、オンラインでもあたたかいものが残る研修でした。（小学校）
- ・「子ども達を浅い起承転結に閉じ込めない」「安易に結に持っていかない」という言葉を大切にしていきたいと思います。司書という、子どもに評価をつけないでいられる立場から見ていると、時々、みんな同じ方向・同じゴールを目指さなくてもいいのではないかと、感じることもあります。自分自身がまずもっと柔軟になることから、ブックコミュニケーションの第1歩を踏み出そうと思います。（義務教育学校）
- ・本でつながり合う楽しさを再認識し、今後の図書館でのコミュニケーションに活かしていきたいと思いました。これまでのご経験や様々な人との関わりが村中さんの中で物語になるのを垣間見られたように感じ、個人としても大変興味深かったです。ありがとうございました。（高等学校）
- ・自分の嫌な経験も、絵本の中で視点を変えて見てみると、それまでの気持ちが和らぎ、新しい気づきが生まれ、光を当ててくれることもある。私にとって、新しい気づきとなりました。明日から、この新鮮な気持ちを持って、たくさんさんの絵本との出会いを楽しんで行こうと思います。（公共図書館）
- ・ブックコミュニケーションという言葉が初めて聞く言葉だったのでとても興味がありました。あるテーマから思いつく思い出話から他のものに繋げ組み合わせていく。私の中でも新たな発見となりました。（公共図書館）
- ・個人のエピソード（物語）と本の物語を重ね合わせながら読み合いすることで、これまでより絵本が身近に感じられたように思います。これまでは対面で接していた本が、自分の横に寄り添っているような気持ちになりました。（公共図書館）